

②スナップエンドウ育てる

ツル整理し風通し良く

スナップエンドウは中央アジアから中東地方が原産で、1970年代にアメリカから導入されたグリーンピースの改良品種です。豆が成長して大きくなってもサヤが硬くならず、サヤごと食べられ、ぱりとした食感が楽しめます。

塩ゆでして、そのまま食べたり、マヨネーズをつけて食べたり、天ぷらや炒め物、サラダなどさまざまな食べ方ができ、お弁当の彩りなどでも活躍する甘くておいしい野菜です。

①畑の準備 種まき2週間前に、苦土石灰を1平方メートルあたり150グラム施し、よく混ぜて耕します。1週間後、元肥として1平方メートルあたり堆肥2キログラム、化成肥料(15・15・15)80グラム、ヨウリン50グラムを全面に施し耕し、120センチ程度の幅にうねを作ります。



②種まき・間引き 株間30センチごとに3～4粒ずつ点まきし覆土します。発芽後、本葉3枚ほどの時、生育の遅れている株等を間引いて2本立ちにします。

③追肥・土寄せ 窒素が多いと、ツルが伸びすぎるので、前作で地力のある場合は、発芽後、月に1～2回草木灰を株元にばらまき、花が咲き始める3月にカリ分の多い追肥用化成肥料(成分16・0・16)や草木灰を1平方メートルに20グラムくらい施し、株元に土寄せをします。

④防寒対策 12月下旬から2月頃の時期は、寒さが厳しいので、うね全体に不織布をかけるか、株元に敷ワラをするなどします。

⑤支柱 新芽が伸びてきたら、支柱を立てネットを張り誘引します。支柱は、細い竹やイラサ(モウソウダケ、マダケの枝)、木の枝などでも十分役に立ちます。

⑥病害虫防除 最もよく発生する病気が、葉に白い小麦粉をふりかけたような病斑が現れるうどんこ病です。ツルが茂り過ぎて風通しが悪くなると発生しやすくなるので、風通しをよくするためにツルの整理をします。

害虫は、ヨトウムシやハモグリハエなどが発生した場合、発生初期に補殺または殺虫剤を散布します。

⑦収穫 開花から25日程度で収穫できます。適期は実が充実し、さやが緑色をしている時期です。

(鹿児島市都市農業センター)